

前橋市立前橋高等学校 学校評価一覧表①第1回点検・評価 (令和元年度版)

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部	改善策
I 特色ある学校づくりをすすめていますか。	1 特色ある教育活動(授業)はありますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。	学校生活全体を通じて生徒が主体的に活動し、自己有用感を得られるような取組を図る。習熟度別各クラスにおける到達目標を明確にし、生徒に自覚させることで学習意欲を喚起する。主体的・対話的な学習が生かせる少人数制の利点を生かした学習活動を展開し、生徒が達成感を得られる機会を設ける。	A	B	生徒がより主体的に活動に取り組むことができるように、教育環境の整備を徹底する。外部アンケートの評価が低いので、編成別の指導内容の見直しと生徒へ達成感を持たせる指導の継続を行う。少人数制の利点を生かした主体的・対話的な学習活動を積極的に取り入れる努力を継続する。
		②習熟度別で履修をすることにより、生徒の75%以上が学力が向上したと感じている。		A	C	
		③少人数制で履修することにより、生徒の75%以上が学力が向上したと感じている。		A	C	
II 生徒の意欲的な学習活動はありますか。	2 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	④学習に対する達成感や満足感をもっている生徒が80%以上である。	習熟度や少人数制などの指導により達成感や満足感を確認するための、振り返りや小テストなどを積極的に取り入れる。生徒が自主的に考え、教え合うテーマの設定と興味関心を引く授業を展開することで、理解を実感させる。	C	C	習熟度クラス編成を進路目標などを鑑み、戦略的に見直す。
		⑤授業に前向きに取り組むことで「授業がわかりやすい」と評価している生徒が80%以上である。		C	C	
	3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑥「授業を通して学力がついた」と評価している生徒が70%以上である。	定期的な理解度を測ることで、生徒自身につまずきを分析させ、個に応じた指導で理解を深める指導を行う。	A	B	個に応じた指導を行う中で、生徒の満足感や達成感を得られる授業を継続する。
III 生徒の充実した学校生活についてありますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑦学習内容の定着を図るため、1日平均2時間以上の家庭学習をしている生徒が60%以上である。	学習時間調査を定期的に行い、目標や課題を設定させ、家庭学習の必要性を自覚できる指導を実践する。	D	D	6月調査では3学年は50%、1,2学年では30%ほどであった。さらに意識を高めさせたい。
		⑧校内において、教育相談体制が整っていると感じている生徒が70%以上である。	教育相談日よりホームページ、スクールMailアシストを活用し、カウンセリング等教育相談体制を整えていることを周知させる。	A	B	教育相談関連の周知と、保護者との連携を図り、きめ細やかな指導と早期対策を行う。
	5 生徒は規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨いじめの発生予防に努め、積極的にいじめ防止に努める生徒が80%以上である。	学校いじめ防止基本方針を保護者や生徒に周知徹底させ、いじめ防止とともに初期対応が遅れないよう情報を共有する。	B	B	いじめ防止対策について生徒と保護者には必ず周知し、生徒主体の取組を学校全体で継続する。
IV 生徒の主体的な進路選択支援をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	⑩学校と家庭の連携の中で、怠惰な遅刻がないと自覚している生徒が90%以上である。	基本的生活習慣を身につけさせるため、全職員で生活指導に取り組み、規律ある学校生活を送れるようにする。	A	B	場面や状況により適切な生活習慣を身につけさせ、規律ある充実した学校生活を送れるようにする。
		⑪学校内の環境美化に心がけている生徒が80%以上である。	校内の美化と環境への配慮を意識付けることにより、快適で安全な学習環境を整備する。	C	A	清掃用具の点検・補充や清掃時の監督指導を継続的にを行い、美化意識を向上させる。
	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、めていますか。	⑫「自己の生き方」と「将来の職業」との関連について考えている生徒が80%以上である。	探究学習計画「めぶく」を通して、自己の生き方を考える取組を充実させる。	C	B	探究学習や特別活動での取組を生かし、生徒への声かけを充実させる。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 家庭、地域社会に積極的に学校公開や情報発信を行っていますか。	⑬生徒の将来の志望について理解している保護者が80%以上である。	家庭での進路についての会話を増やせるように、保護者参加の進路講演会や進路通信を充実させる。	C	B	保護者はもちろん、地域の方々にも開かれた学校になるため、情報提供に努める。
		⑭進路通信や進路情報誌などを活用している生徒が80%以上である。	進路通信・進路情報誌を生徒が主体的に活用する指導を心掛けるとともにスクールMailアシストの活用をする。	D	D	各学年が発信する進路通信をさらに充実させる。
	9 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑮進路実現に向けた指導に満足している生徒が80%以上である。	進路実現計画「さ霧晴れて」に基づいて、二者面談を中心とした個別指導を適切に実施する。	B	B	教職員の二者面談の技術向上を図り効果的な面談にする。
VI 外部組織との連携を図っていますか。	8 家庭、地域社会に積極的に学校公開や情報発信を行っていますか。	⑯「学校(授業)公開」が年2回以上行われていることを認識している保護者が80%以上である。	行事や情報をスクールMailアシストで一斉送信し、周知徹底を図る。	A	A	スクールMailアシストによる情報発信を継続する。
		⑰学校のWebページを見ている保護者が80%以上である。	学校における諸活動や情報を適宜更新し、家庭や地域のニーズに合った情報を発信する。	A	C	Webの更新を頻繁に行うなど情報発信に努める。
	9 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑱地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施していることを認識している保護者が80%以上である。	生徒の進路意識を高めたり、保護者に魅力を与えたりできる講演会を計画し、保護者へ周知できるようにWebページやメールを活用する。	A	B	保護者も参加できる講演会については、内容を通知やWebページを活用して周知できるように取り組む。
10 生徒のキャリア意識を向上させる高大連携を図っていますか。	9 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑲PTAと生徒の合同行事が年2回以上企画、実施されていることを認識している保護者が80%以上である。	保護者や生徒が共に参加できる行事が行われていることを周知させ、保護者が参加しやすい環境を整えて参加者の増加を図る。	C	B	PTA総会や学年懇談会などを通じて学校行事の紹介をするとともに、Webページに学校行事の様子を掲載して通知を徹底する。
		⑳大学との連携を図ることによって、キャリア意識が高まったと実感している生徒が80%以上である。	前橋工科大学・共愛学園前橋国際大学との連携を強化し、大学での学びを実感できる取組を充実させる。	C	C	探究学習や高大連携をさらに充実させ、大学生の学びを体験させる取組を充実させる。

点検・評価の記号表記について：具体的数値項目の基準に応じて、達成度をA～Dの4段階を記入する。  
A：十分に達成できた B：達成できた C：もう少しで達成できた D：達成できなかった